

演題名	特別養護老人ホームにおける精神障害・BPCD症状の緩和		
施設名	ケアポート板橋	(ふりがな) 発表者(職種)	むらかみきょうこ 村上 京子(看護師)
(ふりがな) チーム名	あわーちーむ Ourteam		
分類	③患者サービス・患者満足度の向上をめざすもの		
取り組種別	施策実行型		
改善しようとした 問題課題	特別養護老人ホームにおける入所基準に「要介護度3以上」の規定がある。介護度が重くなるにつれ、疾患や認知症の発症率は比例して上昇し、精神疾患やBPSDへの対応も増加する。従来型という集団処遇に陥りがちな環境の中、個別対応の取り組みの一環として、幸せホルモンを生成する取り組みを行うことにより生活習慣(概日リズム)を整えることができるのではないかと考え、今回のテーマに取り組む事とした。		
改善の指標と その目標値	(指 標) 日本版主観的幸福感尺度 4項目の数値を (目標値) 現状把握数値より、1段階上昇させる(令和5年11月19日までに)		
実施した対策	①文献を基に、幸福度尺度の評価ツールを選定する(日本版主観的幸福感尺度) ②更にセルトニンの学びを深める為、外部研修に参加し知識を得る(セロトニンDojo) ③昼食前の集団体操の時間を活用し、(1)リズム体操(2)日に当たる(3)腹式呼吸を2週間実施する ④食事提供内のトリプトファン融合量の確認を行う		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前) 項目①:平均3.75(53.6%) (実施後) 6.5(92.9%) 項目②:平均4.5(64.3%) 6.25(89.3%) 項目③:平均3.25(46.4%) 5(71.4%) 項目④:平均3.5(50%) 3.75(53.6%)		
歯止めと 標準化	標準化:昼食前の体操時に、(1)リズム体操(2)日に当たる(3)腹式呼吸を毎日取り入れる 教育:幸せホルモンの基礎知識研修を年1回実施する(新入職オリエンテーション含む) 管理:施設介護計画内に標準化内容を位置付け、6か月毎のケース会議にて進捗確認を行う		
活動の種類 ※複数選択可	①職場単位の活動 ③テーマに合わせて形成したチーム活動	チーム メンバー (職種)	1 新堀成江 看護師 2 小西誠之 介護福祉士 3 中原弘二 介護福祉士 4 荒川春香 生活相談員 5 千森まゆみ 介護支援専門員 6 三浦ルミ 管理栄養士 7 小野未鈴 管理栄養士 8 黒羽絵里 作業療法士
活動の場 ※複数選択可	④その他		
活動期間	令和5年4月～令和5年12月		
リーダー名 (職種)	小西誠之(介護職員)		
活動回数	14		回